

恵みの御座に近づこう

2021年8月1日

ヘブル書 4章1～16節

序：聖餐式：キリストを信じた者によって世の終わりまで守られる聖礼典
キリストが制定。最後の晩餐（過ぎ越しの祭りの食事）
出エジプトの記念

私たちのエジプト = 世にあって肉の赴くままの罪深い生活（信仰に入る以前）
神（創造主）から断絶
罪の奴隷、自分では脱出できない

紅海を渡る = 約束の国に行くために必要、神の御業
水の中を通過して向こう岸へ
バプテスマ（洗礼）の型
罪の国を後にして、約束の相続地へ旅立つ

荒野での放浪 = 神に対する不信仰・不従順が原因 ⇒ 主を試みた
神の大いなる救いの御業を経験しながら、忘却、不満
エジプト脱出～約束の地に入る
私たちが救われた後、さまざまな経験をしながら、御国に入るまで

神のさばき = 不従順ゆえに落後した者はカナンに入れず、荒野で滅んだ
ヨシュアとカレブ、若い世代はカナンに入り、地を占領・獲得

I. 永遠の安息の確保

キリストによる救いの結果
それにあずかるためには、民の側の信仰が必要

神が天地を創造して7日目に休まれた ⇒ すでに安息は確立された
神は人間のために、安息をとっておかれた 今なお残されている 開かれている
その安息に入るよう促す

安息

(1)この世での普段の働きの手を止めて、神を専ら礼拝する（安息日を聖別）
神が~~去~~られたと同じように

(2)この地上の生涯や営みから解放されて、御国の安息に入る

その実現は、神のみことばへの信頼と従順によって成る

II. 神のことばの力と働き

(1)生きている

(2)力がある

(3)両刃の剣以上に鋭い

たましいと霊

関節と骨髄の分かれ目

心中の考えやはかりごと

細かい複雑な奥まった部分をも判別

Ⅲ. 神は全知

- (1)すべてが裸、白日の下にさらけだされる
- (2)隠そうとしても、隠べいできない
- (3)終末の時、各自弁明しなければならない (申し開き)
主と主のことばに聞き従ったか
無関心・拒否か

Ⅳ. 私たちの偉大な大祭司

- (1)諸々の天を通られた ⇒ 天の至聖所まで 高挙 神性
- (2)人としての体をもって生涯を送られた 謙卑 人性
人間の味わう喜怒哀楽、苦難を全て経験⇒理解
ただし、罪はなかった 神性
- (3)大祭司＝神と人間の間立つ仲介者
年に一度、羔の血を神の怒りを鎮めるなだめの供え物としてささげた
民と自分のため

しかし、キリストは大祭司であり、同時に供え物の羔でもあった
一度だけで、完結 (他に何も付け加えるものは不要)

ヘブル 9・11～14

- (4)キリストは、今も生きておられ、天の父の右の座に着いて、とりなして
くださっている ローマ 8・34

Ⅴ. 救いにあずかった者は何を求められているか

- (1)主イエス・キリストが神であり、贖い主だと信じ告白する
- (2)その信仰を堅く保つ
- (3)みことばに従う力を請い願うため、数多の誘惑にさらされる時、失敗をする時
折りにかなった助けを受けるために、恵みの御座に近づく
あわれみと恵みをいただいて
大胆に

出エジプト時のイスラエルの民は不信仰・不従順ゆえに荒野で滅びた
彼らには、とりなし手はモーセだけ

私たちも当時のイスラエルと同じく、うなじのこわい、失敗の多い者
不信仰・不従順は数多い
幸いなのは、一度本当に救われた者は、それにもかかわらず永遠に救われている
ということ 聖霊を汚す罪以外は、キリストの贖いの完全さにより、赦される

ゆえに、大胆にはばかりことなく、主に助けを求めることができる
いつでも、どこでも、どんなことでも

信じ、悔い改めと希望をもって、恵みの御座に近づこう